

公民館かながわ



相模原スポーツ・レクリエーションパーク(運動公園)

目次

令和2年度 生涯学習指導者研修「公民館等担 者コース」事業報告 2・3
令和2年度 館長・職員等研修会、館長・公民館 運営審議会委員等研修会 第62回神奈川県公民館大会 4
令和元年度 優良公民館表彰(文部科学大臣表彰)5 平塚市立松原公民館 厚木市立緑ヶ丘公民館
わが館では 6 秦野市立西公民館 綾瀬市立中央公民館
サークル紹介 7 『Dance Team SHOW SUN』(座間市) 『トルケットクラブ』(愛川町)
令和2年度 役員及び常任理事、 編集後記 8
表紙写真解説 8 『相模原スポーツ・レクリエー ションパーク(運動公園)』
公民館総合補償制度 8

令和2年度
生涯学習指導者研修
「公民館等担当者コース」
事業報告

生涯学習指導者研修「公民館等担当者コース」は、県教育委員会と県公連との共催事業です。

例年、全5回に渡って行われていた本研修ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、計画していた内容を再編成し、「社会教育担当者コース」と合同で開催されました。

9月24日から11月26日までの間、計3回にわたり開催された研修のテーマは「生涯学習・社会教育の地域拠点としての公民館のあり方と職員の能力の向上」です。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のため、例年行っていた各教育事務所社会教育主事によるアイスブレイキングの参加体験型講義や事例発表、参加者同士の情報交換をすることはできず、講話を中心とした研修となりました。

延べ92人の参加者は、久しぶりの研修機会に学ぶことの大切さを改めて感じるとともに、様々な気づきを得ていました。

また、これまでとは異なる研修形態から、ウィズコロナ時代における研修のあり方やつながりづく

りについて考える機会となりました。

《第1回》 9月24日(木)

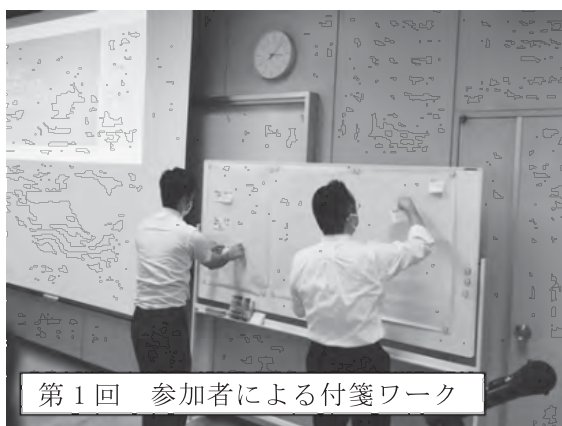
会場 厚木合同庁舎

○講話「生涯学習・社会教育関係職員の果たすべき役割」

神奈川大学

人間科学部人間科学科教授

齊藤 ゆか 氏



第1回 参加者による付箋ワーク

〈研修アンケートより〉
○講話「生涯学習・社会教育関係職員の果たすべき役割」

「生涯学習や社会教育についての見識が深まった。」

「課題解決学習(ワークショップ)があつて良かった。」

「自身の自治体の課題がより明確になった。また、新たな公民館利用者を誘うヒントも得られ

た。」「公民館に来ていただいた方に、もっと声をかけて、会話をしたい。」

「初心者なので勉強になった。」

「わかりやすく、現状(コロナ禍)での公民館の役割がつかめました。」

「今まで『講座』という形にとらわれていたと思った。今後はコロナという状況を前向きにとらえ、新しい体験を提供できたらよいと思った。」

「講座を企画するヒントを沢山得ることができた。」

「オンラインのよさ、対面のよさを理解するよい機会だったと思う。」

《第2回》 10月14日(水)

会場 かながわ県民センター

○講話「ボランティア活動の現状とこれからの意義について」

一般社団法人ソーシャルコー

ディネートかながわ代表理事

手塚 明美 氏

○情報提供「社会教育士について」

県教育局生涯学習部生涯学習課主任主幹

(県公民館連絡協議会事務局長)

菴原 典子 氏

○講話「災害弱者とのコミュニケーションの大切さについて」

神奈川大学

人間科学部・法学部非常勤講師

荻村 哲朗 氏

〈研修アンケートより〉

○講話「ボランティア活動の現状とこれからの意義について」

「ボランティアの歴史、定義について学べた。」

「ディスカッションがあつたのは、頭を整理する上でとても良かった。」

「ボランティアによる様々な活動が今後さらに必要になる中、どうすればよいか考えていかなければならないことを実感した。」

「信頼できる情報の発信」について、行政の必要な役割だとわかるので、今後はより意識を持って業務に取り組んでいきたい。」

「ボランティアを始めるのに低めのハードル設定の必要性を感じた。」

「これからの公民館に必要なことを学べた。外の研修に参加することも大切だと思った。」

「ボランティアと関わる中で、ボランティア自身のやりがいも考えるべき、と改めて感じた。」

○情報提供「社会教育士について」

「社会教育主事と社会教育士がどう違う、どういう位置づけなのか分かった。」

「社会教育に携わってからまだ日が浅いが、人づくり、地域づくり、つながりづくりの意識を日頃からもって取り組みたいと思った。」

「社会教育主事講習を受けたと思った。」

「より多くの人に資格を取ってもらい、地域で活躍して欲しい。」

「地域との関わりが大切だということ、具体的に地域の課題を踏まえて取り組むための知識や技術が必要だと理解できた。」



第2回 講話

○講話「災害弱者とのコミュニケーションの大切さについて」

「日頃からのコミュニケーションや訓練が必要だと思った。」「市の公民館の役割に『地域の防災拠点』が追加され、職場でも話題にあがるのが多くなった。防災講座の予定もあるので、本日のお話を持ち帰り活かしたい。」「動画や演習を交えながらの講義で、とても考えさせられる内容だった。」「災害に関係なく日頃のコミュニケーションが大切であると感じた。文化だけでなく、いろいろな考えを互いに生かし、共有しながら生活していくことが大切であると思う。」「災害時の公的機関の立ち位置、災害が起きた際にも助け合いなが

ら乗り越えられる下準備をしていくなど、ソフト面についてとても考えさせられた。」「『ここならなんとかなる』の『ここ』を守ってほしい。』

《第3回》

11月26日(木)

会場 県立金沢文庫

○施設説明・見学「県立金沢文庫について」

県立金沢文庫

学芸課長 向坂 卓也 氏

主任専門員 山地 純 氏

○情報提供「PLANETかながわと生涯学習情報コーナーの紹介」

県立図書館
広報・生涯学習推進課主事

佐藤 孝樹 氏

○人権教育講話「ユニバーサルデザインが拓く日本の未来」

株式会社ユーディット 会長
同志社大学客員教授

関根 千佳 氏

〈研修アンケートより〉

○施設説明・見学「県立金沢文庫について」

「丁寧な説明を伺った後の施設見学だったので、施設の全体像が理解しやすかった。」「とても楽しかった。最初の概要説明だけでも『本日参加できてよかった!』と思っただ。」「分かりやすく、面白い話題も多かった。」「金沢文庫を身近

に感じる事ができた。古文書マニアには宝庫だと感じた。」「このような研修で博物館見学ができるのは、行くきっかけになり、とても良い。」「今まで知らなかったことを多く知ることができた。『知る』ことから『好き』になるという流れでいえば、今日から神奈川、横浜、金沢をより多く知る機会になった。」「お話を伺い、称名寺も行った。とても広く、橋が印象的で、イチョウも綺麗だった。』

○情報提供「PLANETかながわと生涯学習情報コーナーの紹介」

「PLANETかながわの機能、活用方法について学べた。」「相談機能を充実させたいと考えているので、大変参考になった。」「PLANETかながわをよく利用するが、情報コーナーはあまり知らなかった。私たち職員の相談にのってくださると初めて知り、心強く思った。」「市町村別の検索ができるようになるのは、便利だと思っただ。」「今後、情報登録を依頼したい。」「団体検索など、窓口対応に使っている。』

○人権教育講話「ユニバーサルデザインが拓く日本の未来」

「ユニバーサルデザイン(以下「UD」)に対する世界、日本の取組を知れてよかった。」「社会教育のこれからの姿、めざす姿を考えるきっかけをいただけた。」「UDかどうかを考えることで視点が変わる



第3回 人権教育講

ので、日常、仕事も含めて考えて見つめ直していきたい。」「UDの概念が変わった。『シニア』世代に社会教育を届ける努力をしていきたい。」「ピクトグラムなどすぐに取り組める内容もあり、参考になった。」「UDはハード面のことかと思っていたが、『情報にアクセスできること』人権』という考え方で色々なことがすつきりわかるきっかけになる気がした。」「『魚を釣る』より、技術と教育で『魚の釣り方を教える』というところがとても印象に残った。』

(県公連経営・研修部会)

令和2年度

館長・職員等研修会、館長・公民館運営審議会委員等研修会
テーマ「これからの公民館活動について」

館長職員等研修会と館長・公民館運営審議会委員等研修会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、合同で書面により開催しました。

今年度の県公連年間活動テーマは、『これからの時代に求められる公民館像とは？』と公民館をネットワークの基点とした、新しい『人づくり』『つながりづくり』『地域づくり』の展開です。そこで、近年求められている地域と学校との連携・協働において公民館が果たす役割について、さらに、喫緊の課題であるウィズコロナ時代における公民館活動について、講師より資料を提供いただき、書面研修しました。

また、研修後は、公民館職員から講師への質問を募り、講師に回答いただくことで、双方向の研修会となるようにしました。

資料と講師からの回答により、地域と学校との連携・協働について学ぶとともに、課題や役割を整理し、これからの公民館活動について示唆をいただきました。

◇講師

文部科学省 国立教育政策研究所
生涯学習政策研究部 総括研究官
(併) 社会教育実践研究センター
社会教育調査官
志々田 まなみ 氏

◇研修後のアンケートより

「今後、変遷を遂げていくだろう公民館のあり方について、考えていくことは、たくさんあると思う。」「地域・学校との連携・協働の中で地元で根差した伝統的な行事を継承していけたら良いと思う。」「地域総ぐるみの次世代育成のため、学校・家庭・地域の連携協力の必要性が、わかりやすく図式化され参考になった。」「学校と地域社会が連携するには、シーズとニーズのマッチングが必要で、コーディネート者の役割が重要であることがわかった。」「事例でサクラマスプロジェクトが出ていたが、地域連携、公民館の役割等、今回の研修の趣旨に即しわかりやすかった。」

(公民館経営・研修部会)

第62回神奈川県公民館大会

テーマ「少子高齢化等人口減少時代における公民館の役割」
～人口減少時代の新しい地域づくりに向けて～

令和3年1月29日(金)に開催を予定していた「第62回神奈川県公民館大会」は、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面開催に変更されました。

基調講演の講師である、文教大 学学園理事長 野島 正也 氏からの寄稿文、主催である箱根町の取組事例を紹介した大会冊子をとおして、少子高齢化等による人口減少時代における「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」と、その中の公民館に求められる役割について考えました。

また、大会冊子は神奈川県公民館連絡協議会加盟市町(公民館)を含む、県内市町村に配布しました。

◇表彰式

賞状を送付し、各所属においてお渡しいただくことで表彰式に代えました。

○神奈川県公民館連絡協議会表彰

【優良公民館表彰】

- 相模原市立大野台公民館
- 相模原市立陽光台公民館
- 平塚市立横内公民館
- 寒川町北部公民館

【職員等功績表彰】

該当なし

【永年勤続表彰】

- 木戸 礼子(相模原市立中央公民館)
- 古賀 さやか(相模原市立大野北公民館)
- 渋谷 由美子(藤沢市立藤沢公民館)
- 立川 奈保子(藤沢市立善行公民館)
- 深田 多美子(藤沢市立長後公民館)
- 菅澤 克予(茅ヶ崎市立南湖公民館)
- 泉二 學(秦野市立西公民館)
- 中 敏江(秦野市立南が丘公民館)
- 小田木 三千代(秦野市立大根公民館)

◇基調講演(寄稿文)

「少子高齢化等人口減少時代における公民館の役割」
学校法人文教大学学園
理事長 野島 正也 氏

◇事例発表

「地元住民手作りのふれあいイベント」
仙石原文化センターまつり
実行委員会
会長 市川 毅 氏

なお、第63回神奈川県公民館大会は、川崎市主催にて、令和4年1月28日(金)の開催を予定しています。(県公連事務局)

表彰館の紹介

優良公民館表彰(文部科学大臣表彰)

平塚市立松原公民館

◆駅から徒歩7分の住宅街

平塚市には、ほぼ小学校区に1館の割合で25の地区公民館があります。松原公民館のある地区は、かつて田畑の広がる農村地帯でしたが、近年では平塚駅より徒歩7分という立地条件からマンションが多く建てられ地域外から転入される方が増加しています。昭和36年に平塚で3番目に産声を上げた松原公民館では、今年60周年の節目に優良公民館表彰を受賞することができ、公民館関係者及び地域で二重の喜びとなっています。

◆地域の力 I LOVE 松原

わたしは市内全ての公民館で、同じことをしていると思っていました。地域性を生かすための25館であることを知ってからは、いつのまにか「I LOVE 松原」となり、地域と協力してできる事業や打ち合わせが当たり前のようになりました。公民館が地域における生涯学習の拠点であり、地域の人たちが交流・交歓する場であるためには、地域の力がとても大事であると考えています。

◆新年早々 満員の集会所

地域の力がわかる事業を紹介します。一つ目は毎年1月に開催す

る「まつばらニューイヤークンサート」です。地域の小学校、中学校吹奏楽部、公民館利用団体出演いただき楽器の演奏や合唱等を披露していただきます。多いときで300人の観客が集まりました。児童生徒の呼びかけで、普段公民館を利用されない若い保護者のみなさんが集まっています。部活動の課外活動の縮小など、子どもを取り巻く環境が変わる中で、これからも若い人が集う試みをしていきます。

◆4年連続一等賞の竹飾り



地域力を結集した竹飾り

湘南ひらつか七夕まつりは、平塚市が全国に誇ってお祭りです。市の中心商店街には豪華な竹飾りが飾られますが、市内各地でも工夫を凝らした飾りが掲げられます。

松原公民館では、例年、地域の企業から頂いた大型の発砲スチロールを、キャラクターの形にくり抜き、色とりどりの吹き流しとともに飾っています。数か月にわたる約400人が関わってできあがる飾りは、4年連続で竹飾りコンクール地区別の部一等賞を受賞しています。

(主事 大中 和彦)

厚木市立緑ヶ丘公民館

緑ヶ丘地区は、市内の中でも高齢化率が高い地区ではありますが、地区住民間のつながりが強く、自治会加入率も高い地区で、自治会事業や公民館事業を多くの住民が協力して開催できる地区です。

特色ある事業のひとつとして、「三世代ふれあい交流会」を紹介させていただきます。

人と人とのつながりを大切にしている地区であり、同世代による横の交流はもとより、世代を超えた縦のつながりも大切にしました。事業で、高齢者から幼稚園児までが一堂に介し、世代を超えた音楽祭を開催しております。

この交流会は、NHK交響楽団のメンパーによる弦楽四重奏やプロのジャズバンドである「早川トリオ」の本格的な演奏の後、「三世代ふれあい合唱団」の合唱が始まります。

合唱の最初は、緑ヶ丘合唱団オリジナルの「東海シーガル」が息の合った、明るく元気な曲で会場が盛り上がりします。

次に緑ヶ丘地区の高齢者で組織する「緑ヶ丘シルバー合唱団」です。英語の曲にも挑戦。皆さん大変苦勞されたようですが、とても素晴らしい合唱に拍手がこぼれていました。

続いて、林幼稚園の保護者によ

る「林コーラス隊」の登場です。観客からも「とても良かった」との声をいただきました。

最後に、メインイベントとなる緑ヶ丘市民合唱団による大合唱です。幼稚園児から高齢者まで、三世代、総勢約70人の大合唱です。とても圧巻で素晴らしい合唱。見ている人たちからも大拍手が起り幕を閉じます。



「3世代ふれあい交流会」の合唱

緑ヶ丘公民館は、「地区住民の出会いと活動、生きがいを創る」公民館として、地域に根差した、緑ヶ丘地区だからこそできる事業の実施を考えております。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域の方々の安心・安全で健康的な生活を維持するため、やむを得ず中止とした様々な事業もありますが、これからも地域の方々と協働して事業を検討したいと思っております。

(地区館長 佐々木 安雄)

わが館では・・・

秦野市立西公民館

秦野市立西公民館は、小田急小田原線渋沢駅北口から徒歩で約10分のところに位置し、昭和31年8月、西秦野町時代に建てられた木造施設が前身です。その後、昭和48年4月1日に新築移転し、コンクリート造りの近代的な公民館として、再スタートしました。

あれから47年間、生涯学習活動や地域活動の拠点として、長年地域の皆様に愛されてきました。施設の老朽化を理由に、隣接する西中学校体育館と秦野市立西公民館が、地域防災機能を兼ね備えた多機能型施設として、令和2年9月20日に新たに開館しました。

施設内は、広々とした空間を確保し、随所に秦野産の木材を使用することで、木の温もりが感じられる、開放的ながらも居心地の良い場所を演出しています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、「公民館まつり」や、いくつかの公民館主催事業が中止となりましたが、現在は一定の制限の中で、主催事業も創意工夫しながら実施できるように努力しました。わが館では、子どもからお年寄りまで、地域の誰もが気軽に足

を運んで、様々な活動ができることを願って事業を行っております。その中で、特徴的の事業の一つに「子どもと伝える正月しめ飾り作り」(令和2年12月26日実施)があります。これは、わらを束ね三つ編みにして、糸で縛り、ユズリハ、ダイダイ、ウラジロ、紙垂(しで)を付けて完成させます。秦野伝統の正月飾り(しめ飾り)の手作り体験を通して、親と子どもが共同作業をして、ふれあいを深めながら、伝統に触れて、地域の民族文化を見直しする機会を持てるようにするものです。

今回の事業では、地域の青少年指導員の皆さんとの協働により開催することができました。これからもわが館と地域との連携・協働を深めて、地域の皆さんに愛され、親しまれる施設を目指していきたいと思っております。

(館長 保坂 富士雄)



地域防災機能を兼ね備え、秦野市立西中学校体育館と共に多機能型複合施設として誕生した秦野市立西公民館

綾瀬市立中央公民館

わが館は、神奈川県ほぼ中央にある綾瀬市のそのまた中央付近に、約42年前に開館しました。市内には、中央公民館のほか、5つの地区センターと2つのコミュニティセンターがあり、中央公民館を中心に計8施設で、綾瀬市の生涯学習の一翼を担っています。

同じ敷地内には文化会館・図書館・高齢者福祉会館もあり、市民文化センターという複合施設の中の1つとして親しまれています。公民館事業だけでなく、1350人収容の大ホールと270人収容の小ホールがある文化会館の運営も担当し、職員総勢23人の大所帯で、事務所はいつもにぎやかです。

はじめてのオンライン講座

新型コロナウイルス感染拡大が収束しない中で、令和2年10月30日に、わが館では初めてのZoomを利用した「オンライン講座」を実施しました。始まり

るまでは、どれくらいの方がオンラインで参加していたのかとドキドキしていましたが、当日は70人以上



オンライン講座中のPC画面

上の方に参加していただき、チャットを活用した講師の素晴らしい進行で、大盛況のうちに終わることができました。3才までの子育てに関する講座だったこともあり、参加者からは自宅で子どもと一緒にゆったりと受講できた点も大変喜ばれました。

だがしや楽校もオンライン？

わが館では、お祭りの屋台形式で手軽に趣味や特技・作品などを「みせ」ながら世代間の交流を行い、今後の地域活動に活かしていきたい。ただ「だがしや楽校」を昨年まで5年連続で開催し、毎年好評を博してきました。今年も10名以上の登録者が開催を心待ちにしているところですが、多くの方に一堂に会していただくような従来形式の開催は難しい状況です。そこで今年度はZoomを活用したオンライン形式やYouTubeでの配信を計画しています。出店者の方々はやる気満々で、いかに短時間でご自分の趣味や特技を説明できるか、日夜練習に励んでいます。

新年度はチャレンジの年

令和2年度は大変なこともありましたが、新たな試みにチャレンジするきっかけとなった年になりました。試行錯誤しながらも絶えず挑戦し続ける綾瀬市立中央公民館に是非ご期待ください。

(館長 高木 徹)



「Dance Team SHOW SUN」 座間市公民館

座間市公民館を拠点に毎週楽しくジャズダンスのサークル活動をしています。姉妹サークルの「ダンコネ」と合わせると約80名の子どもたちに踊ることが大好きな仲間たちと力を合わせて、ジャズダンスの技術を教えるだけではなく、体力づくりやコミュニケーションを学ぶ場、友達と笑いあえる場を作り、「ダンスって楽しいな」と思ってもらえるように活動することが目標です。楽しいだけでなく、子どもたちに「ダンスってカッコいいな」と思ってもらえるように、大人のメンバーのみでこっそり練習を重ねて自主公演の舞台を開催したり工夫しています。

設立は20年前、県立座間高等学校ダンス部OG数名で活動を始めました。ダンスが人生になくてもならないものと感じ始めた時、それぞれが社会人となる時期になっていきました。大人になった自分たちに何ができるか考え、地域や子どもたちにダンスの楽しさに触れてほしいと思ったのがきっかけです。気がつけば小さかった子ども

たちは大きくなり、沢山の仲間ができました。私自身も母となり2人のちびっこ怪獣を連れての活動となりました。こうして楽しく活動できるのも、協力してくれる家族と仲間たち、いつも温かく迎えてくださる座間市公民館の皆さん、そしてなによりも毎週楽しそうに公民館に集まってくれる子どもたちのおかげです。

「ダンス」を通じてできた素敵な仲間たちが、いつでも帰ってこられる場所をこれからも守っていかれたらと思います。

(創立者 守屋匠子)



『トルケットクラブ』 愛川町半原公民館

我がトルケットクラブは、昭和53年に『大正』生まれの大先輩の方々により結成された団体『大正スポーツクラブ』の会員が中心となり始まりました。同団体はソフトボールのクラブでしたのでシーズンオフに何かスポーツがしたいと話が出て、誰彼となく「地元の公民館でバドミントンでもやろうか」とのことです。スタートしたので

春にソフトボールが始まると、夜のバドミントンへの参加者が少なくなりました。ことからバドミントンの愛好者で別にクラブを作って活動し始めたのが、このクラブでした。

当初、知り合いの女性にも呼び掛けて平成22年12月に発足しました。当時の会員は男性7名、女性4名でした。皆で会名をそれぞれ発案し、投票で決めたのがトルケットクラブです。発案者によればシャトルのトルとラケットのケットを合わせた造語です。

会則の目的は、バドミントンの自主練習、親睦試合、親睦会の開催です。当初から今日まで毎月、水曜日の午後7時から9時迄の2時間の自主練習です。

会員には種類の立場がありま

意にと認め合っています。メンバーは年輩達ですから立派なプレーはできません。未だにサーブ位置を間違えたり、時々珍プレーや美プレーも出て、笑ったり、褒めたりして楽しんでいきます。

メンバーも入れ替わりつつ、現在、男性3名、女性8名で平均年齢は69歳ですが、皆、心意気も若く仲良しです。お互い何時も注意しているのは、無理せず怪我のないようにと心掛け、勝負より楽しんで、健康の保持と親睦がモットーです。

(代表 新井純夫)



一番左が 新井純夫 氏

 公益社団法人 全国公民館連合会

公民館総合補償制度

この制度は公益社団法人全国公民館連合会の団体制度です。市町村の公民館および自治公民館、また公民館に準ずるものとして全公連が加入を認めたその他の施設等は名称を問わずご加入いただけます。

3つの補償で公民館活動をサポートします。

1. 行事傷害補償

全公連見舞金制度
+災害補償保険
(公民館災害補償特約、
熱中症危険補償特約)

2. 賠償責任補償

賠償責任保険
(施設所有管理者特約、
昇降機特約)

3. 職員災害補償

全公連見舞金制度
+普通傷害保険
(就業中のみ危険
補償特約)

補償範囲や対象者が広い制度です。

年1回の手続きで安心です。

掛金には割引制度もあります。

*このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳細については取扱代理店または引受保険会社までお問い合わせください。

■取扱代理店(お問い合わせ・資料請求先)

エコー総合補償サービス株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9

TEL : 0120-636-717(通話料無料)

FAX : 0120-226-916(通話料無料)

(受付時間:9:15から17:00まで)

■引受保険会社

損害保険ジャパン株式会社

営業開発部第三課

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

TEL 03-3349-3820

(受付時間:9:00から17:00まで)



(SJNK19-12506) 2020年1月15日作成 [2001K-0]

令和2年度 役員及び常任
理事(部会長・副部会長)

【役員】

会長 木下 敬之(学識経験者)

副会長 夏井 美幸(学識経験者)

〃 田中 恵吾(学識経験者)

〃 藤嶋 直司

(相模原市立相原公民館長)

監事 中山 耕造

(県社会教育協会事務局次長)

〃 瀧田 美穂

(茅ヶ崎市社会教育課長)

顧問 神崎 節生(学識経験者)

【常任理事】

総務・広報部会長 森 徹

(藤沢市立藤沢公民館長)

〃 副部会長 塩田 麻美

(伊勢原市社会教育課中央公民館
係長)

公民館経営・研修部会長 別府 拓自

(寒川町民センター館長)

〃 副部会長 小林 光男

(座間市公民館主査)

大会部会長 一寸木 貞夫

(箱根町社会教育センター館長)

〃 副部会長 石川 栄司

(川崎市中原市民館長)

編集後記

令和2年度は新型コロナウイルス感染症に振り回された一年でした。休館や事業中止等の対応に追われましたが、オンライン講座や定員を減らしての事業実施など工夫を凝らしながら事業の開催に向け取り組みを進めた年でもありました。一日でも早くコロナが収束することを願います。

【総務・広報部会】 森 徹(藤沢市)、塩田 麻美(伊勢原市)、齊藤 誠(川崎市)、井上 慎一(厚木市)、高木 徹(綾瀬市)、沖野 僚太郎(湘南三浦教育事務所)、尾上 夏子(事務局)

表紙写真解説

『相模原スポーツ・レクリエーションパーク(運動公園)』

相模原駅北口に位置する在日米陸軍相模総合補給廠の共同使用区域内に整備された、10ヘクタールの広大な敷地を利用した運動公園です。令和2年11月に一部エリアを開園し、順次整備が完了した区域からエリアの拡大を予定しています。解放感にあふれ、みんなの憩いの場として利用できる大きな公園です。

○芝生広場

約1.4ヘクタールの広大な芝生広場です。お弁当を持ってピクニックなど、きれいな芝生の上で憩いの時間を過ごしてみてください。

○遊具広場

体をたくさん動かすことができる遊具を中心にしたいろいろな遊具があります。車いすでアクセスできる砂場やチャックで自由にお絵描きができる「あおぞらキャンバス」など、子どもから大人まで幅広く楽しむことができます。○今後供用開始する施設

人工芝グラウンド、軟式野球場(人工芝)など

・所在地 相模原市中央区小山2679
・開館(所・園)時間 午前8時30分から午後5時まで

(5月から8月は午後7時まで)
・休館(所・園)日 年中無休
・電話 042(769)8243